Osaka University Knowledge Archive

Title	日米におけるガンの現況
Author(s)	田口, 鐵男
Citation	癌と人. 1982, 9, p. 5-6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24141
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

日米におけるガンの現況

§．日本におけるガンの変遷

日本の昭和54年代におけるガン死亡の実態を眺めてみると，依然として男女とも胃ガンがもっとも多く，男ではガン全体の34.2%を占め，女では29.8%を占めている。胃ガンに次いで多いガンとしては，男では肺ガン(16.2%)，肝臓ガン(10.5%)，食道ガン(4.8%)，膵臓ガン(4.6%)，直腸ガン(4.3%) 等であり，女では子宮ガン(8.5%)，肺ガン(8.0%)，肝臓ガン(6.6%)，乳ガン(5.8%)，膵臓ガン(4.6%)，直腸ガン (4.6%) 等である。 これらガンの割合をみてみると，あるガンは増え，あるガンは減少している。

日本人にもっとも多い胃ガンの死亡率は男女とも1960年頃をピークとして徐々に低下してきている。女では子宮ガン，肝臓ガンの死亡率の低下傾向も目立っている。男では胃ガンのほかに著明な低下傾向を示すガンは見あたらない。食道ガンがわずかな低下傾向を示している程度である。

男の肝臓ガンは横ばいをつづけていたが，女と異なり，ここ数年来，肝臓ガン死亡率は上昇傾向を示している。この原因は不明であるが，女では肝硬変の死亡率も低下しているのに，男では肝硬変の死亡率がとくに50才前後で著明に上昇しているので，肝硬変および肝臓ガン死亡率の推移の男女差はアルコール，喫煙等に起因

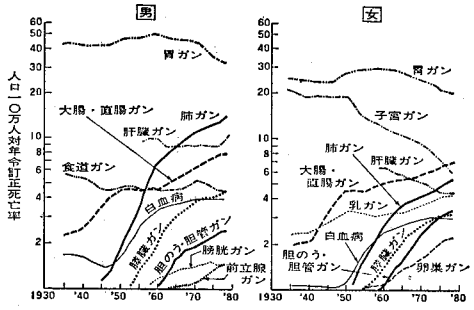

図1　日本におけるガンの部位別年令訂正死亡率*の推移 (1935～1979)

*標準人口：1935年の日本人口

しているのかも知れない。

その他のいろいろなガンの死亡率は男女とも上昇している。とくに上昇傾向が目立つのは男女とも肺ガンである。胃ガンの死亡率が低下していることもあり，肺ガンの死亡率がこのままつづくと，男では1990年から1995年頃の間に肺ガンが胃ガンを抜いてトップになることが予想されている。図1は日本におけるガンの部位別死亡率の年次推移を示したものである。

§．ガンの日米比較

いろいろなガンの割合は国によって著しく異なっている。ちなみに，日本人と米国白人のガンを部位別に比較してみると表1に示すとおりである。

表1　日本とアメリカのガンの部位別比較

ガンの種類	男		女	
	日本人 (1976)	アメリカ白人 (1975)	日本人 (1976)	アメリカ白人 (1975)
	%	%	%	%
全ガン	100.0	100.0	100.0	100.0
口腔・咽頭ガン	1.2	3.2	0.8	1.7
食道ガン	4.9	2.5	1.9	1.1
胃ガン	38.2	4.8	32.2	4.0
大腸ガン（直腸ガンを除く）	3.8	11.2	5.4	15.1
直腸ガン	4.2	3.2	4.4	3.2
肝臓ガン	9.4	2.2	6.6	2.3
胆のう・胆管ガン	2.6	0.9	4.6	2.0
膵臓ガン	4.3	6.1	4.1	6.1
喉頭ガン	1.0	1.5	0.3	0.3
肺ガン	14.3	36.7	7.3	13.1
骨のガン	0.5	0.5	0.5	0.5
皮膚ガン	0.6	1.9	0.6	1.6
乳ガン	—	—	5.5	22.6
子宮ガン	—	—	9.7	7.0
卵巣ガン	—	—	2.8	7.4
前立腺ガン	1.9	11.3	—	—
膀胱ガン	1.7	4.0	1.1	1.9
腎臓ガン	0.8	2.5	0.5	1.8
白血病	3.0	5.1	3.0	4.5

日本人では男女とも胃ガンが一番多いが，米国白人では胃ガンはわずかにガン全体の5％弱である。一方，米国人に多いガンとしては男では肺ガンが段然多く，約37％を占めている。ついで多いのは大腸・直腸ガン，前立腺ガン，悪性リンパ腫，膵臓ガン等である。米国人の女では乳ガンがもっとも多く，ガン全体の約23％を占めている。次いで多いのは大腸・直腸ガン，肺ガン，子宮ガン，卵巣ガン，悪性リンパ腫，膵臓ガン等である。

米国人より日本人に多いガンとしては胃ガン，食道ガン，直腸ガン，肝臓ガン，胆のう・胆管ガン，子宮ガンなどである。

日本人より米国人に多いガンとしては肺ガン，口腔・咽頭ガン，大腸ガン，膵臓ガン，乳ガン，卵巣ガン，前立腺ガン，膀胱ガン，腎臓ガンなどである。

米国においても日本と同様に，ガンの部位によって，あるものは増え，あるものは減っている。図1と図2を比較してみると明らかなように，わが国で増加しているガンは大部分が米国

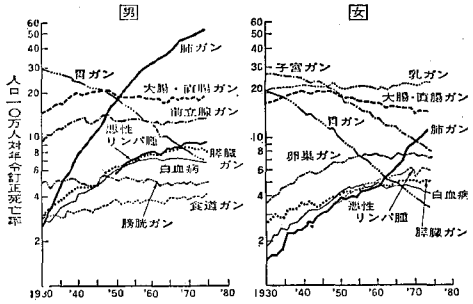

図2　アメリカにおけるガンの部位別年令訂正死亡率*の推移（1930～1974）
＊標準人口：1940年のアメリカ人口

で多いガンであり，わが国で減少しているガンは米国で少ないガンである。興味あることは米国においても昔は胃ガンや子宮ガンが多かったのであるが，ここ数十年の間に急激に減少してしまった事である。逆に肺ガンは男女とも顕著な増加傾向を示しており，男ではすでに1950年頃に胃ガン，大腸・直腸ガンを抜いてトップになっている。したがって，一部の例外を除いて，わが国のガンのパターンは数十年遅れて米国型のガンのパターンを追いかけているといえる。